令和６年３月３１日
校　長　決　定

令和５年度　東京都立駒場高等学校　学校経営計画

Ⅰ　目指す学校

１　教育目標の達成度合い

－豊かな個性を伸ばす　　健康な身体を養う　　広く人間性を培う－

コロナ禍を経て、すべての教育活動が従前のとおり実施することができ、教育目標をある程度達成できたと考える。一方、過去数年間に蓄積した課題が、都民の声や苦情の手紙などによって一気に噴出し、課題の解決へのきっかけとすることができたが、学校運営上の大きな負担になった。

進学実績ではようやく進学指導特別推進校としての地位を維持する結果をだすことはできたものの、都立高校を取り巻く環境は、この１年間さらに厳しいものとなっており、改革のスピードを加速していくことが急務である。

２　目指す学校の達成度合い

令和５年度から新たに５年間「進学指導特別推進校」として指定されるとともに、創立 120 年を誇る伝統と実績が高い評価を得ている。また、芸術・スポーツの分野でも輝かしい実績を築き、社会の様々な分野で活躍する人材を輩出し続けている。

（１）生徒・保護者・地域社会からの期待に応える学校。
（２）全国大会出場レベルの運動部・文化部を有する「進学指導特別推進校」に相応しい学校
（３）リーダーとしての資質が身に付く学校

令和４年度の進学実績は、進学指導特別推進校７校中６位、進学指導推進校１３校中の８位相当と危機的状況であるという認識を教職員で共有することを最大の目標として取り組んだことにより、大半の教職員が進学校として立つという校長の方針の下、教育活動に取り組むようになった。特に、若手中堅教員の改革に向けた意欲が高まり、４級職に新たに５人の若手中堅教員が手を挙げたことは、改革を推進する原動力となると考える。進学実績は凋落したままであるが、難関国公立＋国立医医合計６名（現役５名）という結果により、進学指導特別推進校の中位に位置することはできた。

生徒や保護者の期待に応える学校を標榜したが、都民の声３０件余、手紙やメール、電話や訪問による批判や意見が寄せられ、その対応に追われたのが実態であった。授業・教員の質、課題・宿題の量と質、教科における評価方法、部活動の指導方法、事故・怪我への対応、保護者への情報提供の在り方など、多岐にわたる１１事案に対応してきたが、課題・宿題の量と質、部活動の指導方法については年度内に解決に至らなかった。また、教職員による不適切な指導が２事案発生した。

学校行事は、コロナ禍を経て、生徒・保護者の熱意も高く、十分な成果を挙げることができたと考える。また、部活動についても、種目によっては全国大会、関東大会、都大会、公立学校大会等への出場を果たし、一定程度の成果を挙げることができた。

リーダーを育成するという視点では、生徒の進路先を分析すると、普通科、保健体育科に相応しい、また、将来の展望を踏まえた進路選択となっていたかどうかは疑問が残る。一方、総合的な探究の時間における 4,000 字論文の取組等は、今後、総合型選抜による国公立大学進学への道筋をつけることに繋がるものと考える。

Ⅱ　中期的目標の達成度合い

目標：高大接続改革及び改訂学習指導要領を踏まえ、対話的・主体的な深い学びを実現して生涯にわたって学び続ける姿勢の土台を築くとともに、「高い学力」と「豊かな人間性」を培い、進路希望の実現に向けて積極的に取り組む生徒を育成する。

授業評価をエビデンスとして公表し、教員の指導力向上に結び付ける取組を行ってきた。同時に、ホームルーム活動調査により、経営計画の具現化に資する指導が行われているかどうか、生徒実態調査や課題・宿題に関する調査により、生徒・保護者の苦情の裏付ける実態があるかどうかについて、集計・分析を行って公表するなど、教育活動の透明性を高める取組を行ってきた。また、シラバスの策定と公表、観点別評価を含む各教科・科目の評価基準の策定と公表、定期考査等の改善の方針の決定と公表を令和６年度から実施することを宣言し、教務部を中心に各教科で準備を進めるよう促してきた。さらに、カリキュラムの改訂の方針を校長決定し、令和８年度入学生から実施する計画である。

（１）（学習指導・進路指導）

改訂学習指導要領を踏まえ、学習到達目標の明示、学んだ知識・技能の活用機会の提供、生徒に対する期待の表明などにより生徒の基礎学力の水準を向上させるとともに、思考力、判断力、表現力を培い、将来、社会に積極的に貢献しようとする態度を育成する。

授業評価の結果、自分なりの課題・目的意識をもって授業に臨む生徒の学習成果は極めて高いことが裏付けられたが、一方で、そうした生徒の全体に占める割合が最高で７割、最低で３割、平均すると５割前後と、進学指導重点校の９割、８割に比べてかなり低いことも明らかになった。これは、教科担任個々の力量に拠るところよりも、シラバスがない、評価基準が明示されていない、学習到達目標を伝えていない、生徒への期待の表明がな

いなど、学習指導の効果を高めるための学校全体での取組が十分ではないことの証左であると考える。

（２）（進路指導・学習指導）

進路部・キャリア支援部・学年の連携強化、校内研修の充実等による教員の進路指導力の向上、補習・講習の組織的な取組、進路室・図書室・自習室・学習支援ソフトの活用促進などを通して、生徒が高く掲げた進路志望の実現と進学実績の向上を図る。

・国公立合格者数 46 昨年度は上回ったが往時の 2/3 程度

・私学重複合格者数 982 うち早慶上理 121

進路実現には保護者の理解と協力が不可欠であることから、保護者向けの進路講演会は全学年対象に実施し、一定の手応えはあったが、各学年共に年１回の開催にとどまった。進路指導の駒場スタンダードの策定も予定していた令和５年末までには完遂できず、年度末までかかってしまうなど、改革のスピード感が重要であることを教職員に浸透させることが十分できなかった。上位層を育てることで学校全体の進学に向けた機運を醸成する取組として「チーム難関」を６回開催したが、３年生の参加はゼロ、１、２年生も１０名から２０名の参加にとどまった。協力者は増えており、次年度は一層力を入れて取り組む必要がある。

（３）（生活指導）

下校時刻の遵守、遅刻防止、「切替と集中」の実践を通し、生活習慣や主体性、規律性などの規範意識の確立を図る。人権尊重精神を養い、「いじめはどの学校にも起こり得る」の認識をもって指導に当たる。また、支援を必要とする生徒には、関係機関とも連携して、状況に応じた対応を組織的かつ迅速に行う。

部活動の終了時刻は守られているが、生徒によっては自習室へ行くでもなく、校内で直ぐに帰らない生徒が一定数いることから、切替と集中の実践については未達成である。いじめと考えられる案件が発生した場合は迅速ないじめ対策委員会の開催を実践し対応している。また特別支援会議を開催し、個別の指導計画を作成し、保護者と連携をとり対応した。

（４）（特別活動・部活動）

学習、活発な学校行事や部活動を通して、生徒の主体性、規律性、社会性、人間性の向上を図る。

5 月からコロナが５類となり教育活動の通常化を行ってきた、体育祭では全学年での保護者観覧での開催ができた、また都駒祭では有観客での実施ができたが、感染症対策に課題が残った。また、今後進路を考慮した日程での開催を検討していく。部活動では全国大会に６部、関東大会に６部が参加するなど実績を残した。一方で部活動に関しての苦情が多く、対応に時間を費やした。今後もガイドラインに沿った活動で保護者・生徒に説明責任を果たしながらの活動をしていくことが課題である。

（５）（健康づくり・安全及び防災・国際理解）

定期健康診断やスポーツテストの結果分析、スクールカウンセラーによる「1 年生全員面接」等組織的な教育相談、セーフティ教室、防災教育などを通して、生徒の心身の健康増進、安全への関心、自助･共助の精神、危険を予知し回避する能力を高める。また、海外語学研修等を活用し、国際理解を推進する。

定期健康診断の結果から一部生徒と面談等を行った。またスクールカウンセラーの面談から個別の相談に結び付けることができた事例もあり、一定程度効果がでている。また、セーフティ教室では薬物・SNS の適切な使用について地元警察署と連携をとりながら実施した。地域と連携した防災訓練では、消防署・都水道局・目黒区と連携をとり避難所設営訓練も含めて実施できた。海外学校間交流推進指定校として４年ぶりにオーストラリアへの短期語学研修を実施し、生徒が１・２学年全生徒の１割強に相当する７５名の参加で実施した。

（６）（募集・広報活動）

授業や学校行事の公開、学校説明会・学校見学会の充実を図るとともに、X（旧 Twitter）や YouTube 等のＳＮＳを活用して小中学生とその保護者、学習塾、近隣小中学校に対する発信力を一層高める。

学校説明会・学校見学会を予定より５回多く実施し、また今年度から新たに、小学生対象の夜の学校見学会、中学１・２年生対象の学校説明会、塾対象の学校説明会などを実施した。X での配信では 1800 回以上のポストを実施し 2200 名以上のフォロワーを獲得した。2 年連続の増学級であったが、学力選抜における最終倍率で普通科 1.70 倍、保健体育科 1.54 倍となった。

（７）（学校経営・組織体制）

生徒が学校の教育活動に安心・信頼して取り組めるよう、担任や教科担任、部活動顧問だけでなく、全教職員が連携して生徒の指導に当たる体制を整える。

女性教員の学校経営への参画を、企画調整会議の充実、「経営参画ガイドライン」に基づいた経営企画室の経営参画の促進、自律的改革に向けた組織的な取組などを通して、学校経営計画の具現化を目指す。

高い倫理観をもつ教員集団としてコンプライアンスに留意し学校の教育責務を果たす。特に「体罰は絶対にしない、させない、許さない」等、体罰や個人情報紛失を含め、あらゆる服務事故を起こさない。

「都立学校経営指標」等を基に経営や取組の進捗状況を把握して改善に結び付けるとともに、学校組織マネジメントや執務ガイドラインを活用して、特に若手人材の育成を校長自ら図っていく。

生徒の怪我や病気について、保健室の養護教諭を中心として、担任・学年・分掌・管理職が連携して対応することができた。また、特別な支援の必要な生徒に対して個別のケース会議などを専門医派遣事業を活用して行った。

専門医派遣事業では生徒からのメッセージにいかに気付くかを主題とした保護者対象の講演も行い、生徒理解に保護者と連携して取り組んだ。一方、教員による生徒対応で不適切な指導が２事案発生したが、軽微にとどまり解決に結び付けることができた。教員への研修などを更に徹底して、来年度は、若手の教員に活躍の場を確保し、OJT を実践して人材育成を計画的に進める。

Ⅲ　今年度の取組目標の達成度合い

（１）進学指導の実践
・授業評価アンケートを年２回 Web により実施
・ホームルーム活動調査を年２回Webにより実施
・生活実態調査を年２回 Web により実施
・課題、宿題に関する調査を実施
・一人１台端末の活用方針について校長決定しホームページで公開
・オンライン英会話の学習や外部検定試験の実施
・習熟度別授業を普通科では第２学年の数学と英語、保健体育科では全学年の英語で実施
・土曜授業を年間２０日実施
・夏季休業日を短縮し授業時間の増加
・最終下校時刻の午後５時（延長申請時は午後６時３０分）自習室は１９時５０分まで実施
・校長指名教員の授業参観の実施
・金融教育などの将来を見据えた授業の実施
・災害時の調理など災害対策を踏まえた授業の実施
・シラバスの作成を指示

（２）進路希望の実現
・３年間を見通した進路指導全体計画「駒場スタンダード」の作成
・「チーム難関」による志を育てる活動の実施
・保護者への進路ガイダンスの実施
・講演会の実施（フリーアナウンサー笠井氏、シアトルマリナーズトレーナー山本氏）
・国公立大学進学に対応したカリキュラムへの検討開始
・思考判断表現力を問う問題・共通テストの新傾向の問題・初見の問題を作問方針の決定

（３）主体的な生活規律の向上
・完全下校 17 時（延刻により 18 時）自習室 19 時 50 分の尊守
・生徒主体の体育祭・都駒祭（文化祭）の実施

（４）豊かな人間性の醸成
・「総合的な探究の時間」における 4000 字論文の実施
・「駒場」の探究で授業と連携した校外学習の実施
・がん教育講演会の実施（フリーアナウンサー笠井氏）
・進路講話（シアトルマリナーズトレーナー山本氏）
・ジオパークへのバスツアーの実施

（５）安全保持と環境美化
・消防署、都水道局、目黒区と連携した防災訓練の実施
・年４回避難訓練の実施
・教室のゴミ箱の撤去
・感染症対策の実施

（６）広報活動の充実
・公式 X（旧 Twitter）での年 1800 回以上のポスト実施
・学校説明会を予定より５回増加して実施
・小学生対象夜の学校見学会の実施
・授業公開を年間５回実施
・中学生が本校部活動を体験できる場として「駒場スポーツ教室」を保健体育科の専攻種目で実施
・中学１・２年生対象学校説明会の実施
・塾対象学校説明会の実施

（７）働き方改革の推進及び組織的な学校運営と経営企画室の経営参画の促進
・男性教員の育児休業の取得実施
・校務支援クラウドサービス導入による紙の削減
・多摩産材什器による校内整備の促進
・計画的な生徒ロッカーの購入（今年度全学年更新完了）